

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2122 SSMP2363
2. 授業担当教員	横田 俊平		
4. 授業形態	講義、グループ・ワーク、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。		
8. 学習目標	1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。 2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。 3) 子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。 4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。 5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができるようになる。 6) 母子保健の現状と課題について学び、説明することができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題：(各々の宿題は、明朝体10.5ポイントで印字し、A4判、横書き、3ページ(1ページあたり40字×39行)にまとめて下さい。) 1) 「健やか親子21(第2次)の批判的理解について(第5回終了時点で提出のこと)」 少子化の進行、核家族化、育児の孤立化、子どもの貧困、不登校児の急増など子どもを取り巻く環境は厳しさを増している。平成13年から26年まで実施された「健やか親子21」は平成27年より第2次に引き継がれた。その基盤課題・重点課題を批判的に検討し、提案型のレポートを作成して欲しい。 2) 小児期の代表的な病気とその対処法について；(第13回終了時点で提出のこと) 病児保育が制度化された今日、保育所や幼稚園などに勤務する職員にも子どもの病気の知識を習得し実践する能力を身につけておくことは大切である。 レポート課題： 1) 個人別レポート課題；『母子健康手帳から得られるもの』；(冬休みに入る最後の授業時に提出する) 母子健康手帳の中から得られたテーマを1つ選んで論文(総説)を書いて下さい。個人の成育歴を知り、養育者の育児に対する想いを知ることが、こどもの保健そのものなのです。 (明朝体、10.5ポイントで印字し、A4判、横書き2枚(1ページあたり40字×39行)にまとめてください。) 2) グループ別レポート課題；『保育所、幼稚園でよくみられる発疹を伴う感染症について』； (冬休みに入る最後の授業時に提出する) 発疹性疾患の診断は大変難しいので、保育所、幼稚園の実習までに知識を身につけておくことが大切。 発疹性疾患のレポート課題は、グループ編成時に決める。 [明朝体10.5ポイントで印字し、A4判、横書き、4ページ(1疾患につき2ページ)(1ページあたり40字×39行)にグループごとでまとめて提出する。その後、グループごとで発表・討論し、知識を共有する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 中根淳子、他著『子どもの保健』ななみ書房、2019年。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第5版』中央法規、2017年。 【参考書】 中根淳子編著『子どもの健康と安全』ななみ書房、2019年。 【教材】 テーマごとに資料を随時配布する		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1) 子どもの成長および発達について説明することができる。 2) 小児期の成長・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育の意義について説明することができる。 3) 子どもの生活リズムや基本的な生活習慣を説明し、実践することができる。 4) 小児期によくみられる疾病とその対処法を説明し、実践することができる。 5) 小児期の事故防止と安全教育について説明することができる。 6) 母子保健の現状と課題について説明することができる。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、期末テスト、レポート等を総合して評価する。 期末テスト又は課題 40%、レポートなどの提出物 40%、授業態度 20% 上記のほかに、本学の規程に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることも配慮する。		
12. 受講生への メッセージ	「子どもの保健」は保育中の乳幼児の命と健康を守るための知識を学ぶ重要な課題です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段とは異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し適切な対処が必要です。本教科目では、将来、受講生たちが保育所・幼稚園に勤務した時や親になった時に役立つような知識を習得し実践して解決する力を身につけてほしい。目的達成のために、受講生は以下のことを守ってほしい。 1) この教科目内容は難解のところも多いので、常に緊張感と集中力を保って受講し、積極的な態度で授業に参加することを希望する。授業内容の理解のために、事前学習・事後学習を必ずしてほしい。 2) 宿題やレポートの提出期限を厳守すること。 3) 正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず担当教官に書面をもって報告すること。 4) 受講中には、私語、居眠り、携帯電話・メール・スマホ等の操作は絶対にしないこと。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 保育における子どもの保健の概説、グループ編成	事前学習	「子どもの保健」の学習用ノートを準備しておく。
		事後学習	「子どもの保健」のねらいについて、学習用ノートにまとめる。

第2回	子どもの健康と保健の意義 (健康の概念、健康指標、「健やか親子21(第2次)」)	事前学習	第1章(pp.9~16)を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「健やか親子21(第2次)」について理解し、整理しておく。
第3回	子どもの成長と発達(1) 子どもの身体発育(胎児の発育、小児期各期の身体発育)	事前学習	第2章(pp.17~28)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	成長と発育の違いを理解して、発育の評価をノートにまとめる。
第4回	子どもの発育と発達(2) 精神運動機能の発達(感覚機能、神経機能)、精神機能とこころの発育・環境	事前学習	第3章(pp.43~56)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	感覚機能、神経機能、精神機能の発達の内容を理解し、大切な事項をノートにまとめる。
第5回	子どもの発育と発達(3) 生理機能の発達(呼吸機能、循環機能、免疫機能、消化機能、尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能)	事前学習	第3章(pp.29~42)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	各臓器の生理機能を理解し、大切な事項をノートにまとめる。
第6回	子どもの生活と保健(1) 保育現場における衛生管理(自然環境の衛生管理、施設の衛生管理)	事前学習	第6章(pp.103~118)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	自然環境の衛生管理、施設の衛生管理、滅菌・消毒法について要点をまとめる。
第7回	子どもの生活と保健(2) 保育現場の事故防止と安全対策	事前学習	第6章(pp.119~133)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	発達段階からみた事故の特徴、乳幼児突然死症候群、安全管理について要点をまとめる。
第8回	子どもの生活と保健(3) ①心の健康と課題、②虐待、③発達障害、④登園拒否・不登校	事前学習	第5章(pp.85~102)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	心身症、虐待、発達障害、登園拒否・不登校について理解を深め、要点をまとめる。
第9回	子どもの食 ①子どもの栄養・生理、②母乳保育の意義、③人工栄養、④離乳	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	三大栄養素の消化・吸収がどのように行われているかを理解し、乳児期の母乳栄養・人工栄養について利点を検討し、母乳栄養を成功させるための10カ条についてまとめる。
第10回	子どもの疾病と保育(1) ①症状の診方と考え方、②子どもの急性疾患と慢性疾患の考え方と対応。	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	主な症状(発熱、咳、嘔吐、下痢、意識障害、発疹、けいれんなど)と病気との関係を理解し急性疾患・慢性疾患の考え方、対応の違いを理解し要点をまとめる。
第11回	子どもの疾病と保育(2) ①子どもに多い病気の診方と鑑別(感染症、アレルギー性疾患)、②皮膚・目・耳の病気、	事前学習	第4章(pp.57~65)(pp.68~71)を熟読して要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	感染症の類型、保育園・学校で流行する感染症と食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、結膜炎、中耳炎などについてまとめる。
第12回	子どもの疾病と保育(3) ①内臓器の病気(呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、血液系)	事前学習	第4章(pp.71~84)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	各臓器の病気について理解を深め、要点をまとめる。
第13回	子どもの疾病と保育(4) ②中枢神経系、③内分泌・代謝系、④免疫系、⑤骨・関節・筋肉の病気、⑥病気の予防	事前学習	全身の調節器官である神経系、内分泌系、免疫系について理解し、その実行器官である筋肉・関節についてまとめる。
		事後学習	感覚・神経・筋・関節について体系として理解し、まとめる。
第14回	子どもの救急と応急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止、ショック、けいれん、②保育中の事故(頭部打撲、やけど、異物誤飲・誤嚥)、③応急処置	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	救急と認識する方法を理解し、心配蘇生法について習得し記録をまとめる。
第15回	子どもの保健まとめ	事前学習	第1章(p.12)、第7章((pp.146~147)を読んで要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	健康診査、保健指導、「健やか親子21」などについて整理し、家庭との連携の重要性、子どもの生活リズム、食事、睡眠などをまとめる。
期末試験			